平成２８年度

大学院文学研究科博士課程前期２年の課程入学試験

（　春期・一般選抜　）問題

専門科目Ⅰ　日本思想史

試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。

受験番号	

成績	

平成２８年度

大学院文学研究科博士課程前期２年の課程入学試験

（春期・一般選抜）問題

専門科目 Ⅰ（日本思想史）

一、今後研究しようとするテーマについて、次の二点を記しなさい。（各二〇行程度）

（１）これまでの先行研究の問題点

（２）今後の研究計画

二、次の史料を読んで、以下の問いに答えなさい。

（１）本文の要旨を、わかりやすく述べなさい。（二〇行程度）

（２）本文の内容について、思想史的角度から、自由に論じなさい。（二〇行程度）

秘儀に云はく、「そもそも芸能とは、諸人の心を和らげて、上下の感をなさむこと、寿福増長の基、遐齢延年の法なるべし。究め究めては、諸道悉く寿福延長ならん」となり。ことさらこの芸、位を極めて、佳名を残すこと、これ天下の許されなり。これ寿福増長なり。

しかれども、ことに故実あり。上根・上智の眼に見ゆるところ、長・位の極まりたる為手においては、相応至極なれば、是非なし。およそ愚かなる輩、遠国・田舎の賤しき眼には、この長・位の上れる風体、及びがたし。これをいかがすべき。

この芸とは、衆人愛敬をもて一座建立の寿福とせり。ゆゑに、あまり及ばぬ風体のみなれば、また諸人の褒美欠けたり。このために、能に初心を忘れずして、時に応じ所によりて、愚かなる眼にも、「げにも」と思うやうに能をせんこと、これ寿福なり。よくよくこの風俗の極めを見るに、貴所・山寺・田舎・遠国・諸社の祭礼に至るまで、おしなべて誘りを得ざらんを、寿福達人の為手とは申すべきや。されば、いかなる上手なりとも、衆人愛敬欠けたるところあらむをば、寿福増長の為手とは申しがたし。（中略）

受験番号	

この寿福増長の嗜(たしな)みと申せばとて、ひたすら世間の理(ことわり)にかかりて、もし欲心に住せば、これ第一、道の廃(すた)るべき因縁なり。道のための嗜みには、寿福増長あるべし。寿福のための嗜みには、道まさに廃るべし。道廃らば、寿福おのづから滅すべし。

（『風姿花伝』より）

受験番号	

受験番号	

受験番号	

受験番号	